地域
そのものを
健康に

大学院医学薬学研究部　教授
田村 須賀子
たむら・すがこ

地域看護の活動を学術的に明確にし社会的な位置付けを追究したい

地域に住む人々が健康な生活を送ることができるように、家庭訪問や保健事業の企画・実践・評価などを行うのが、地域看護の活動だ。活動領域には、自治体の保健所や保健センターに勤務する保健師の活動のほか、企業で働く労働者および家族を対象とする産業看護、学校などの教育機関に所属して、児童生徒・学生および教職員を対象とする学校看護、在宅で療養している方とその家族を対象とする在宅看護に大別できる。いずれも、人々の健康生活を守るための地道な仕事であり、息の長い活動が必要になる。

田村教授は、地域住民の健康管理・増進に携わる地域看護の仕事を長年手がけてきた。

実例研究で保健師を支援

しかし、保健師として地域を回る中で感じたのは、「自分を含めた多くの保健師さんが、先輩たちがどういう考えで、どういうことを大事にしながら活動を行ってきたのか、明確にされないまま仕事をしている」ことだった。

「これでは、保健師活動が発展しない」という思いから、地域看護についての学術的な研究が必要だと感じ、保健師への聞き取り調査を開始する。約10年前のことだ。

地道な家庭訪問のやり方に変化を迫られている現代、先輩たちが行ってきた活動の良いところを生かしながら、これからの地域看護のあり方を考えていかなければならない。そのためには、家庭訪問の実態を丁寧に聞き取りし、地域ごとに何を実践しているのか、情報の共有が必要となってくる。

「今は、保健師さんの活動をどう位置付けていくか認めてもらう段階。そのためにも、一つ一つの実例を研究し、学術的に知ってもらうことが、より良い実践を続けるための後方支援になる」と、田村教授は言う。

地域看護と災害看護

また、地域看護と密接な関係があるのが災害看護だ。「被災地の住民と向き合ったときに、昔ながらのコミュニティーがしっかりしているところでは、生活がうまく機能している。保健師は平常時から災害に耐えうる健康な地域づくりに取り組まねばならない」ことを実感したという。

病気の予防や、罹患しても社会参加が可能な社会をつくるには、地域の持つコミュニティーの力を高めることが重要だ。「地域そのものは、10年働きかけて少し変われば良いというもの。派手さはない地味な仕事だが、目に見えない仕事をしている人ほど、いい仕事をしている。そういう人の社会的な位置付けを確立したい」。熱い思いが、地域看護に携わる人々を支える原動力となっている。

寄稿した専門誌『保健師ジャーナル』や、
田村教授が手がけた地域看護学の教科書など